



第304号 平成29年3月10日発行
公益社団法人 三田市シルバー人材センター
〒669-1323
三田市あかしあ台5-32-2
電話 564-7501
FAX 553-1300
Eメール sandasilver631015@sandasc.org
ホームページ <http://www.sandasc.org/>

第6回 理事会開催

今回の理事会は、年度末が近いということで、報告、協議ともボリュームがあり、各部会の報告も、次年度に向けた課題が残る内容となりました。

総務財政部会では、派遣や適正就業を推し進めながらの事業拡大や、会員増強のほか、「シルバー感謝祭」の次回開催に関する課題が報告されました。

業務部会では、独自事業に関して、実績と経費のバランスを課題とした、今後の事業運営について検討中との報告があり、**福利厚生部会**からは、日帰り旅行、ボウリング大会の実施報告と、「三田まち歩き」と次年度日帰り旅行に関する検討内容が報告されました。

安全・適正就業推進委員会からは、ペナルティ制度の規程について報告があり、審議し承認されました。今年4月1日から運用開始となります。今後、更なる安全就業に関する取り組みが重要、との報告もされました。

次に協議事項として、本年度の補正予算を含む決算見込みが承認されました。

また、次年度事業計画の骨子については、目玉となるようなメインの事業は上がりませんが、各部会が取り組んでいる課題に、着実に取り組むことで事業展開することと、次回「シルバー感謝祭」の開催については、早い段階から検討を要する事となりました。

その他、次年度事務局体制や規程の改定なども、十分な協議をへて承認となり、今回の決議内容を踏まえ、次回の理事会では、次年度事業計画及び予算の協議を行うこととなります。



第4回地域班連絡会議開催



この会は地域班長の皆さんが、自由に意見交換する活発な場となっていますが、今回は、次年度にむけた各地域班の活動内容や、親睦事業に関する取り組み、会員への地域班活動への理解と協力などについて、活発な意見交換が行われ、今後の活動への反映が期待されるところです。

また、「シルバー感謝祭」に関する取り組みについてもおおいに議論され、地域班としては、シルバーのPRのために積極的に協力したいとの姿勢です。しかし、参加者や、協力会員に常連が目立つため、今まで以上に会員に関心を持ってもらえる内容や、働きかけが課題となり、斬新な計画と、十分な準備が必要との意見にまとまりました。

シニアと団体つながり広場

高齢者の就業や社会参加に向けた支援・応援窓口として、去る2月16日に、キッピーモール6階にて、「シニアと団体つながり広場」が開催されました。

午後1時より、11の参加団体がそれぞれブースを設け、来場者への案内や質問にお応えするという内容です。当センターは、事務局と竹炭の2ブースで参加しました。

今回は、スタンプラリーを取り入れたため、沢山の方がスタンプカードを片手に訪れました。お話を聞くと、定年後のライフスタイルについて、悩まれている様子が垣間見れました。

意外とシルバーをご存知の方も多く、入会を検討された方もおられました。今後、会員が増えていくことに期待しています。



地域班の班会案内

地域班の班会を案内しますので、参加くださるようお願い致します。

地域班	場所	開催日	開始時間
三田	三田市民センター	4月19日(水)	10:30～
三輪	三輪会館	4月27日(木)	11:00～
小野	有馬富士共生センター	4月19日(水)	10:00～
高平	高平ふるさと交流センター	4月24日(月)	10:00～
広野	広野市民センター	4月26日(水)	10:30～
藍・本庄	藍市民センター	4月20日(木)	10:00～
フラワー	フラワータウン市民センター	4月18日(火)	10:30～
ウッディA・B	ウッディタウン市民センター	4月26日(水)	10:00～

ウッディA・B班合同出前講座

2月24日、ウッディタウンA・B班はウッディ市民センターにおきまして、さんだ市政出前講座を受講しました。出席者は35名、講座名は「あなたにもできる家庭・地域での防火」と「ふるさと三田の歴史と文化財」でした。

「あなたにもできる家庭・地域での防火」では、先日の糸魚川の大火にも触れ、強風の際の火事は必ず風上に逃げる様、又、高齢者の日頃の生活での注意点としましては、寝具・エプロン・カーテン等も防災の物を、買い替えの際は購入するのが良いのではとの助言も頂きました。

「ふるさと三田の歴史と文化財」では明治・大正・昭和の三田の移り変わりを映像で見せて頂き、三田駅のプラットホームは、いまだにそのままを一部分残しているとのお話に驚きました。終了後、皆様とご一緒に次回の講座は何か良いのかお話をしながら、お弁当を頂きました。



シルバー月間誌取材受ける！

全国のシルバー人材センターの活動を紹介する、「月刊シルバー人材センター」という雑誌があります。去る1月30日に、当センターの「竹炭作り」がその取材を受けました。竹藪伐採現場と、炭焼きの作業場を訪れ、慣れない斜面で記者の足元がおぼつかない場面もありましたが、活動的に動く会員達のあとを追って、文字通り密着取材となりました。写真満載で、4月号に掲載される予定です。ご希望の方は事務所ロビーでご覧いただけます。



また、読売新聞系の「ちょこコミ」と言うミニコミ紙をご存知でしょうか？

2月1日に、アポなしで記者が事務所を訪れ、ちょうど作業をしていた「刃物研ぎ」の取材をさせていただいたこと…労せず得られたPRの機会に、迷わず取材OKとなりました。



既に2月12日に発行されたので、見られた方もおられるのではないのでしょうか。依頼が殺到することを期待します。今後もいろんなマスコミを通じて、会員の活躍がPR出来ればと思います。

笑顔研究所 あなたが笑顔になる時は...

今回は除草班で就業されるかたわら、そば打ちにも熱心に取り組まれている八木さんにお話を伺いました。



やぎ まこと
八木 誠 さん

入会は平成20年7月です。八木さんは昨年12月に、全麺協(全国麺類文化地域間交流推進協議会)認定そば打ち4段の試験に見事合格されました。

このために、1週間で100回程程度のそば打ちを練習したそうです。段位には初段から5段まであり、そば打ちを職業としない素人が対象です。きっかけは、シルバーに入会する前に、そば打ち名人からお蕎麦をふるまっていた時、あまりの美味しさに自分でも打ってみたい、と思われたからだそうです。

料理をしたことのない男性でも一度やりかたを覚えてしまえば、あとは自分なりのこだわりや工夫を重ねながら、家族や友人、ご近所の人たちにふるまうと、とても喜んでいただけるし、そんな楽しみを通じて、手軽な趣味として続けていくことができます。特に新そばが入る季節のそば粉の香りはすばらしく、そば打ちの幸せを感じます、と蕎麦打ちの魅力について話されました。

今は「永沢寺そば打ち愛好会」で技術の研鑽を重ねながら、後進への指導にあたられており、ボランティア活動で地域の子供さんたちや各種施設で、そば打ちの実演と説明、試食などもされています。

最後に、笑顔になられるときは？とお尋ねすると「自分の打ったお蕎麦を食べていただいて、美味しかった！と言われたとき、自然と笑顔になります。」と話されていました。

(T・N記)

3月11からの行事予定

- 3月15日(水) 仕事の相談日(10:00～)
- 24日(金) 理事会(13:30～)
- 福利厚生部会(9:30～)
- 4月14日(金) 入会説明会(13:30～)
- 19日(水) 仕事の相談日(10:00～)

夏用タイヤ交換お引き受け

料金(4本/ホイール付・大型車別途相談)

- 会員 1,540円
- 会員以外 2,057円

交換は自宅で行います。

交換タイヤは車の側に準備下さい。

連絡先: 事務局電話 079-564-7501



ひなめぐり IN さんだ



2017/02/25
旧九鬼家住宅資料会館

三田ではひな祭りのイベントが、2/25(木)~4/3(日)まで「ひなめぐり IN さんだ」として、三田ふるさと学習館と旧九鬼家住宅資料館で、たくさんの「おひなさま」が展示されています。



ひな祭りの由来

平安時代に、貴族の子女の間で流行ったままごと遊びの「雛遊び」と、けがれを祓う厄除けとして紙で作った人形を川へ流す「流しびな」が、宮中から庶民の間に広まりました。そして江戸時代に人形が飾られるようになり、3月に「ひな祭り」がおこなわれるようになったそうです。江戸時代から、雛人形が嫁入り道具となり「5人ばやし」「3人官女」などが作られました。

女の子の健やかな成長と幸せを願って祝う行事。



三田ふるさと学習館

各時代の「おひなさま」が展示されていて圧倒されます。たくさんのおひなさまに会いにお出かけされては如何でしょうか？（駐車場はふるさと学習館の前にあり、1時間無料です。学習館に駐車券をお持ちください。）

(A・O記)

新入会員紹介（順不同・敬称略）

今回は9名の方が会員登録されました。

個人情報のため、お名前は伏せています。

次回の配分金の支払いは 4月 10 日(月)です

項目	平成27年度実績	平成28年度(速報)
会員数(人)	1, 099	1, 092
受注件数(件)	2, 697	2, 602
契約金額(円)	425, 863, 038	450, 127, 493

(平成27年度・28年度2月度)

伝言板

《 人間万事塞翁が馬 》

窓ごしに芽吹き始めた庭木を眺めていたら、フトこの言葉が頭をよぎりました。

「じんかんばんじ さいおうがうま」人間（世間）では万事（すべからくの事象）が塞翁が馬（翁が囲いの中に飼っていた馬を取られてしまった。嘆き悲しんでいると、その馬がもう1頭連れて帰ってきた。その馬に息子が乗り、落馬して足をけがした、でも戦が始まったが其の怪我で出征しなくともよくなった）何事も幸不幸を目先の事で判断してはいけません。という教えです。この言葉を座右の銘にされている方も多いですね、i P S細胞の研究と発見でノーベル賞を受賞された山中信弥教授もそのお1人です。永い研究の旅路、アツと驚く手法で解決のつく事もあれば、これで良いと思っていたのに、何の解決にもならない。行きづまったときこの言葉を思われるそうです。

あれ程の研究成果を築かれた人でもそうなのですから我々凡人にして然りです。

私も万事・・・と考えると残りの人生生きることとしましょうか。

(M・Y 記)